

令和6年3月19日

## 令和5年度鹿児島学習定着度調査

奄美市教育委員会

### 1 実施の状況

【調査日】令和6年1月16日(火), 17日(水)

【調査対象】小学校第5学年, 中学校第1・2学年

【調査の趣旨】

学習指導要領において身に付けさせることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能や思考力, 判断力, 表現力等に関する学力の状況を把握するとともに, 児童生徒の学習に関する意識などの学習状況, 学校との取組状況を把握する。また, 全県的な傾向との比較・分析を通じて, 各学校が自校の課題を明確にし, 問題解決的な学習活動を取り入れるなど, 教員の指導法改善を図るとともに, 児童生徒の学力向上を図る。

【学力調査】

当該学年の12月終了程度までの学習範囲についての学力状況を調査

- ・ 小学校(国語, 社会, 算数, 理科)
- ・ 中学校(国語, 社会, 数学, 理科, 英語)


【学習状況調査】

児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を調査

【対象校数及び実施校数】

小学校 対象校21校のうち実施校19校  
中学校1年 対象校12校のうち実施校12校  
中学校2年 対象校12校のうち実施校11校

### 2 教科に関する調査の結果

(1) 市の平均正答率  は70%以上。( )内は, 県平均との差

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	69.4(0.9)	70.0(4.7)	77.7(3.1)	75.1(-0.3)	
中1	74.4(-1.5)	55.5(1.1)	74.6(0.3)	64.5(-1.8)	76.1(-0.9)
中2	61.9(-3.7)	59.1(-3.2)	66.6(-2.2)	67.8(0.9)	70.6(-0.8)

《参考》過去3年間の学力調査の結果

【令和4年度】

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	72.1(1.1)	79.2(1.7)	69.1(1.7)	70.0(-1.7)	
中1	68.5(-1.9)	63.5(-4.9)	69.6(-1.3)	62.5(-0.7)	73.3(-2.4)
中2	66.6(-4.4)	52.2(-3.0)	69.4(-3.1)	59.0(-3.5)	64.7(-3.1)

【令和3年度】

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	72.1(-0.2)	81.5(1.6)	69.0(-1.6)	65.9(-7.2)	
中1	71.4(-2.2)	75.4(5.1)	68.2(2.2)	69.7(0.3)	67.1(-4.4)
中2	79.0(1.7)	71.4(4.6)	69.7(-0.5)	69.7(1.1)	58.6(-1.8)

【令和2年度】

	国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	75.2(0.1)	76.8(1.3)	68.8(-0.6)	72.9(-2.0)	
中1	81.0(2.3)	68.5(4.1)	74.4(-0.6)	73.6(3.3)	68.3(0.2)
中2	77.1(0.4)	74.3(6.7)	65.0(-2.0)	72.2(1.4)	59.1(1.3)

(2) 結果の詳細

ア 結果の概要

- ・ 本調査は、主として「知識・技能」に関する内容と、主として「思考・判断・表現」に関する内容について、全体の通過率を70%程度となるよう出題している。
- ・ 令和5年度、7割を超えた教科は、14調査中6教科であった。
- ・ 県平均正答率と比較すると、小学校は、理科以外の3教科で県平均を上回っている。
- ・ 中学校では、1年生が社会と数学、2年生が理科で県平均を上回っている。

イ 「知識・技能」の分析

(ア) 知識・技能に係る問題で、正答率が9割を超えた問題

<小学校5年>

- 国語 漢字を正しく書けるかを問う問題
- 社会 地図から日本の周りの国々の位置を読み取れるかを問う問題
- 算数 数量の関係を理解し、数直線上に表すことができるかを問う問題
- 算数 折れ線グラフから数量を読み取れるかを問う問題
- 理科 骨と骨のつなぎ目の名称の理解しているかを問う問題

<中学校1年>

- 国語 漢字を正しく読めるかを問う問題
- 国語 古文の内容と古語の意味を理解しているかを問う問題
- 数学 比例の関係をを用いて値を求めることができるかを問う問題
- 理科 脊椎動物と無脊椎動物の違いを理解しているかを問う問題
- 理科 音源の振動により、音が鳴ることを理解しているかを問う問題
- 英語 複数のものの数と位置を聞き取れるかを問う問題

<中学校2年>

- 社会 ハザードマップや災害、防災について理解しているかを問う問題
- 数学 表から比例の特徴を捉え、値を求めることができるかを問う問題
- 理科 光合成が行われている部分を理解しているかを問う問題
- 理科 酸化銅の化学式を理解しているかを問う問題
- 理科 露点について、理解しているかを問う問題
- 英語 日常的な場面や対話を聞いて適切な絵を選べるかを問う問題
- 英語 文と文のつながりに注意して英文を選択できるかを問う問題
- 英語 グラフの内容を正しく表す英文を選択できるかを問う問題

(イ) 基礎・基本に係る問題で、正答率が5割に届かなかった問題

<小学校5年>

- 理科 電気を通すものと磁石につくものを理解しているかを問う問題

<中学校1年>

- 国語 部首を正しく理解しているかを問う問題
- 社会 排他的経済水域の広さを求めることができるかを問う問題
- 社会 アフリカ州の自然について理解しているかを問う問題
- 社会 ヨーロッパの地形や農業について理解しているかを問う問題
- 社会 EUの特色について理解しているかを問う問題
- 社会 古代文明の特徴や縄文人の生活を理解しているかを問う問題
- 社会 7世紀頃の東アジアと日本の様子を理解しているかを問う問題
- 社会 奈良時代の文化を理解しているかを問う問題
- 理科 溶解度の語句を理解しているかを問う問題
- 理科 水素を発生させる方法を理解しているかを問う問題
- 理科 実像ができる範囲を理解しているかを問う問題
- 理科 粒の違いで地層の層を区別できることを理解しているかを問う問題
- 英語 be動詞の否定文を正しい語順で答えることを問う問題

- < 中学校 2 年 >
- 国語 行書の特徴を理解しているか問う問題
- 国語 古文を読んで、文意をとらえることができるか問う問題
- 社会 三角州、九州地方の環境について理解しているか問う問題
- 社会 国内の産業の動向を理解しているか問う問題
- 社会 陶磁器文化を理解しているか問う問題
- 社会 鎖国など江戸時代の政治や文化を理解しているか問う問題
- 数学 角の二等分線の作図を理解しているか問う問題
- 数学 表やグラフから情報を読み取ることができるか問う問題
- 英語 文法事項を理解し、適切な語を使うことができるか問う問題

ウ 「思考・判断・表現」の分析

(ア) 思考・判断・表現に係る問題で、正答率が8割を超えた問題

- < 小学校 5 年 >
- 国語 登場人物の気持ちを、叙述から捉えることを問う問題
- 国語 自分の考えとその理由の関係を捉えることを問う問題
- 国語 図表やグラフを用いて、書き表すことができるか問う問題
- 国語 内容の大体をとらえることができるか問う問題
- 国語 考えが伝わるように書くことができるか問う問題
- 社会 2つの資料から読み取ったことを説明できるか問う問題

- < 中学校 1 年 >
- 国語 読み手の立場に立ち、文章を整えることができるか問う問題
- 社会 互いの発言を結び付けて考えをまとめることを問う問題
- 英語 弥生時代の社会の変化を説明することができるか問う問題
- 英語 自己紹介を聞き取ることができるか問う問題
- 英語 好きなスポーツを答えることができるか問う問題

- < 中学校 2 年 >
- 数学 問題場面の考察の対象を正しく捉えられるか問う問題
- 数学 比例が利用されていることを見いだすことができるか問う問題

(イ) 思考・判断・表現に係る問題で、正答率が3割に満たない問題

- < 小学校 5 年 >
- 国語 文と文のつながりを考え、接続語を使って書くことを問う問題
- < 中学校 1 年 >
- 社会 壘田永年私財法の制定の背景や結果を説明することを問う問題
- 数学 問題解決のために用いる代表値を判断できるか問う問題
- < 中学校 2 年 >
- 国語 事実と感想・意見など話の構成を工夫できるか問う問題
- 社会 宗教改革と海外新出をつなげて説明できるか問う問題
- 社会 資料から秀吉のキリスト教への対応を説明できるか問う問題
- 数学 事柄が成り立つ理由を説明することができるか問う問題
- 理科 水蒸気量と湿度の関係を結果を比較して考えることを問う問題

### 3 考察

小学校は、理科を除く3教科で県平均正答率を上回り、中学校は、1年生で社会と数学の2教科、2年生で理科が県の平均正答率を上回る教科が結果となった。また、これまで中学校で課題があった数学や英語についても改善しており、学力が向上してきていると考えられる。

知識・技能では、高い正答率を示す一方で、特に、中学校の国語科や社会科では、習得が不十分であり、思考・判断・表現に係る問題では、事実と考えを分けて書くことや、資料をもとに自分の考えを相手に伝えるように説明することで課題がみられる。

このことから、市教委としては、授業改善の視点として、これまで重点的に取り組んできた日々の授業における授業終末での「確かめ・見届け」の充実させ、毎時間の学習内容についての確実な理解を図ること、また、自らの考えをもち、友達同士で学び合う中で、考えを深化することができる授業を展開することを指導する。併せて、A Iドリルや演習問題への取組を通して、確実な習熟を図ることにも取り組んでいく。